平成 27 年 11 月 13 日現在

熊本市立地適正化計画
（たたき台）

－ 巻末資料 －

目　　次

巻末資料１　市政アンケート及び市民懇話会等の結果 …… 巻 1

巻末１－１　市政アンケート結果 …… 巻 1

巻末１－２　市民懇話会結果 …… 巻 9

巻末１－３　市政アンケート及び市民懇話会の地域生活圏ごとの整理 …… 巻 15

巻末１－４　民間団体ヒアリング結果 …… 巻 20

巻末資料２　地域生活圏の分析結果 …… 巻 23

１）植木地区（北区役所周辺） …… 巻 25

２）北部地区（北部総合出張所周辺） …… 巻 27

３）楠・武蔵ヶ丘地区（楠・武蔵ヶ丘周辺） …… 巻 29

４）八景水谷・清水亀井地区（堀川・亀井駅周辺） …… 巻 31

５）子飼地区 …… 巻 33

６）長嶺地区 …… 巻 35

７）水前寺・九品寺地区 …… 巻 37

８）健軍地区 …… 巻 39

９）平成・南熊本地区（平成・南熊本駅周辺） …… 巻 41

１０）刈草地区（島町・上ノ郷） …… 巻 43

１１）富合地区（南区役所周辺） …… 巻 45

１２）城南地区（城南総合出張所周辺） …… 巻 47

１３）川尻地区 …… 巻 49

１４）城山地区 …… 巻 51

１５）上熊本地区 …… 巻 53

１６）中心市街地 …… 巻 55

巻末資料３　中心点の設定の考え方 …… 巻 57

巻末資料４　Ｑ＆Ａ …… 巻 61

巻末資料１　市政アンケート及び市民懇話会等の結果

巻末１－１　市政アンケート結果

【調査概要】

○調査対象者

熊本市在住の満 18 歳～79 歳までの男女 5,000 人（住民基本台帳より無作為抽出）

○調査期間

平成 27 年 7 月

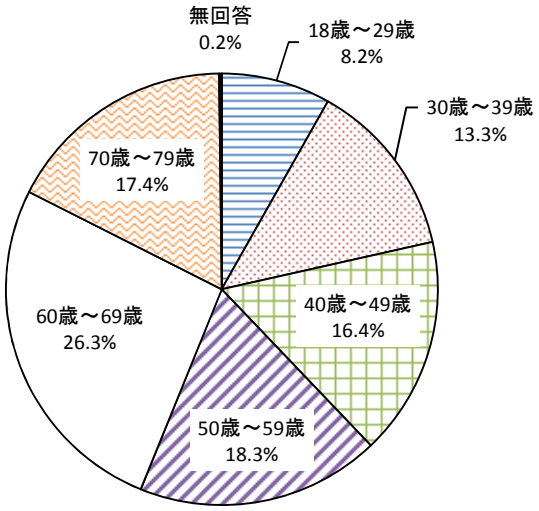
○調査方法

郵送による配布・回収

○アンケート回収結果

有効回収数：2,068 件（有効回収率　41.4%）

○年齢区分別有効回答者数

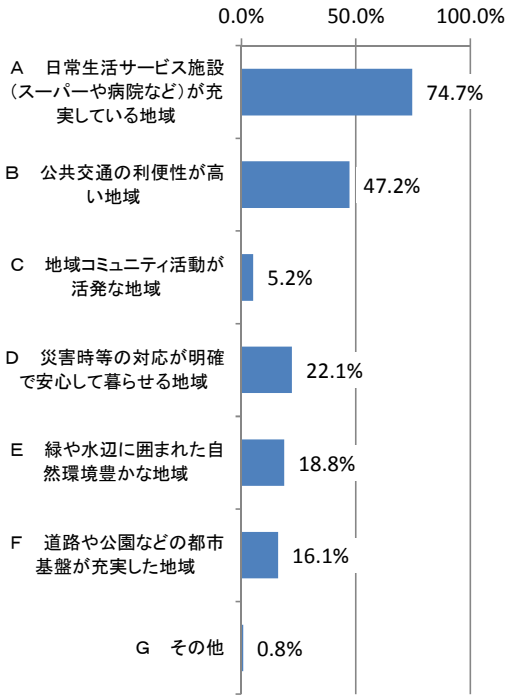


年齢区分	件数	割合
18歳～29歳	169	8.2%
30歳～39歳	275	13.3%
40歳～49歳	339	16.4%
50歳～59歳	378	18.3%
60歳～69歳	544	26.3%
70歳～79歳	359	17.4%
無回答	4	0.2%
合計	2,068	100.0%

問１　あなたは、どのような地域に住みたいですか。（２つまで）

●市民の多くは、施設が充実した地域や公共交通の利便性が高い地域に住みたいと回答しており、本市が目指す多核連携都市の方向性と合致している。
●なお、若い世代は都市基盤の充実を求め、高齢者世代は地域コミュニティの充実を求めている。

【全体の割合】　N=2,068



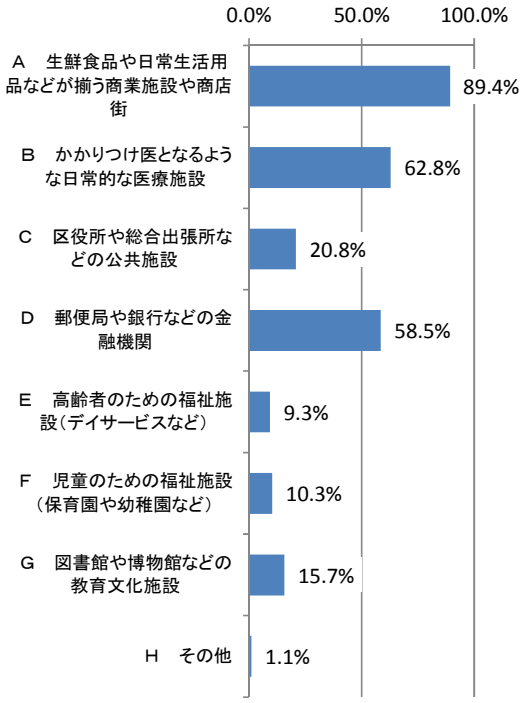
（上段：人　下段：%）

		合　計	A	B	C	D	E	F	G
全体合計		2,068	1,544	977	108	458	388	332	17
			74.7%	47.2%	5.2%	22.1%	18.8%	16.1%	0.8%
年齢区分別	18～29歳	169	133	75	6	28	29	43	3
			78.7%	44.4%	3.6%	16.6%	17.2%	25.4%	1.8%
	30～39歳	275	204	118	13	51	57	78	2
			74.2%	42.9%	4.7%	18.5%	20.7%	28.4%	0.7%
	40～49歳	339	251	196	8	63	54	63	6
			74.0%	57.8%	2.4%	18.6%	15.9%	18.6%	1.8%
	50～59歳	378	291	178	22	93	79	46	3
			77.0%	47.1%	5.8%	24.6%	20.9%	12.2%	0.8%
	60～69歳	544	394	250	35	139	115	68	3
			72.4%	46.0%	6.4%	25.6%	21.1%	12.5%	0.6%
	70～79歳	359	269	160	24	84	53	34	0
			74.9%	44.6%	6.7%	23.4%	14.8%	9.5%	0.0%

問２　あなたは、自宅から自家用車を使わずに行けるところ（公共交通や自転車、徒歩等で行けるところ）にどのような日常生活サービスがあれば、生活しやすいですか。（３つまで）

●市民の多くは、商業・医療・金融施設が身近に欲しいと回答している。
●なお、当然ながら児童福祉施設を選択した割合は若い世代ほど多く、医療施設や高齢者福祉施設を選択した割合は高齢者世代ほど多いなど、世代によって求める施設は異なる。

【全体の割合】　N=2,068



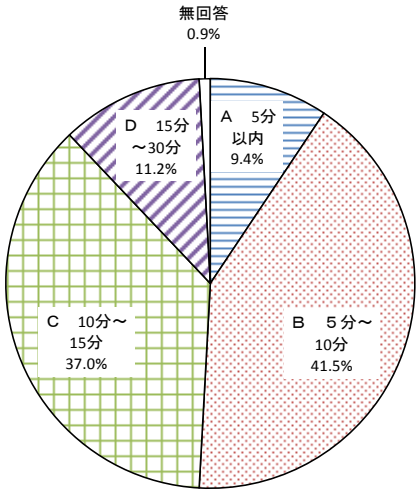
（上段：人　下段：%）

		合　計	A	B	C	D	E	F	G	H
全体合計		2,068	1,848	1,299	431	1,209	193	212	325	23
			89.4%	62.8%	20.8%	58.5%	9.3%	10.3%	15.7%	1.1%
年齢区分別	18～29歳	169	162	85	32	104	2	33	32	2
			95.9%	50.3%	18.9%	61.5%	1.2%	19.5%	18.9%	1.2%
	30～39歳	275	246	149	49	155	3	94	54	7
			89.5%	54.2%	17.8%	56.4%	1.1%	34.2%	19.6%	2.5%
	40～49歳	339	307	225	80	224	14	34	52	1
			90.6%	66.4%	23.6%	66.1%	4.1%	10.0%	15.3%	0.3%
	50～59歳	378	338	253	85	230	25	15	54	8
			89.4%	66.9%	22.5%	60.8%	6.6%	4.0%	14.3%	2.1%
	60～69歳	544	480	345	118	306	69	21	100	4
			88.2%	63.4%	21.7%	56.3%	12.7%	3.9%	18.4%	0.7%
	70～79歳	359	313	241	67	188	80	14	33	1
			87.2%	67.1%	18.7%	52.4%	22.3%	3.9%	9.2%	0.3%

問３　　問２で回答したような施設を徒歩で利用する際、あなたは、その施設までの所要時間はどのくらいまでなら許容できますか。（１つだけ）

●施設までの所要時間は、平均値を算出すると 10.6 分となる。
●なお、高齢者世代ほど所要時間は長くても許容される傾向にある。

【全体の割合】　N=2,068



（上段：人　下段：%）

		合　計	A	B	C	D	無回答
全体合計		2,068	194	858	766	232	18
		100.0%	9.4%	41.5%	37.0%	11.2%	0.9%
年齢区分別	18～29歳	169	27	68	52	22	0
		100.0%	16.0%	40.2%	30.8%	13.0%	0.0%
	30～39歳	275	28	129	106	11	1
		100.0%	10.2%	46.9%	38.5%	4.0%	0.4%
	40～49歳	339	42	155	121	21	0
		100.0%	12.4%	45.7%	35.7%	6.2%	0.0%
	50～59歳	378	41	160	132	42	3
		100.0%	10.8%	42.3%	34.9%	11.1%	0.8%
	60～69歳	544	28	211	218	85	2
		100.0%	5.1%	38.8%	40.1%	15.6%	0.4%
	70～79歳	359	28	134	137	50	10
		100.0%	7.8%	37.3%	38.2%	13.9%	2.8%

【第 2 次熊本市都市マスタープラン　地域別構想（平成 26 年 3 月策定）】P163

地域拠点は地域生活圏の核となる都市機能が集積したエリアであり、公共交通を利用して商業施設、医療施設といった各種都市機能にアクセスする際には、基本的に徒歩での回遊が前提と考えます。そのため、既往の調査等より、**概ね徒歩 10 分圏内として、概ね 800m圏内**を地域拠点エリアとして設定しました。

※一般の人の歩行速度 80m/分、高齢者の人の歩行速度を 60m/分とした場合、800m は一般の人が約 10 分、高齢者が約 13 分になります。

（徒歩移動における参考資料）
※平成 24 年に実施された「第 4 回熊本都市圏 PT 調査」より、一般の方々の徒歩圏は、通学や帰宅目的を除き、**概ね 10 分圏内**となっています。

表　目的別・代表交通手段別・平均所要時間（分）

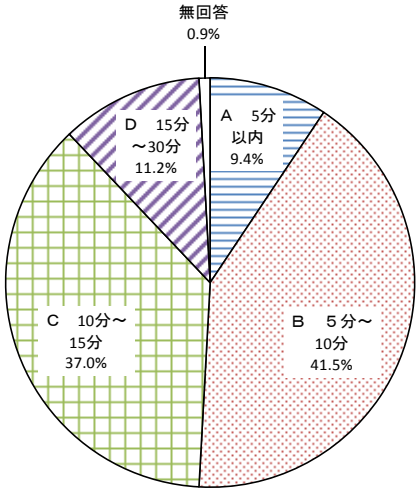
	徒　歩	自転車	バイク	自動車	バ　ス	鉄　道	市　電	その他	平　均
通　勤	10.8	17.1	20.8	26.6	64.5	46.8	38.4	49.9	34.4
通　学	19.2	23.6	25.5	18.6	60.4	44.2	51.9	15.3	32.3
帰　宅	16.5	17.9	21.1	20.5	60.2	44.7	42.7	18.7	30.3
私　用	13.9	14.4	18.3	21.3	56.9	50.0	35.8	21.0	29.0
業　務	10.3	14.8	22.1	34.7	49.5	63.0	51.0	46.0	36.4
平　均	14.2	17.5	21.6	24.3	58.3	49.7	44.0	30.2	32.5

資料）第 4 回熊本都市圏 PT 調査

問４～６　徒歩で居住地から鉄道駅・電停・バス停までかかる時間は、どれくらいまで許容できますか。

●許容時間は、長い順に鉄道駅＞電停＞バス停であり、特にバス停については、鉄道駅や電停よりかなり短い状況である。
●都市マスタープラン（地域別構想）による居住促進エリアは、バス停 300m、鉄軌道駅 500m であり、利用者が公共交通を利用する許容範囲であることが確認された。
●なお、施設同様、高齢者世代ほど公共交通までの所要時間は長くても許容される傾向にある。

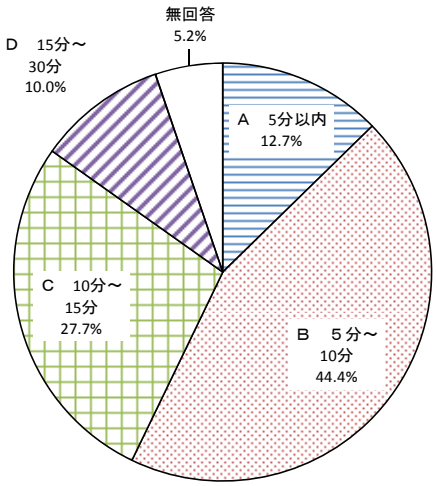
【鉄道駅：全体の割合】　N=2,068



（上段：人　下段：%）

		合　計	A	B	C	D	無回答
全体合計		2,068	147	787	734	365	35
		100.0%	7.1%	38.1%	35.5%	17.6%	1.7%
年齢区分別	18～29歳	169	16	72	59	22	0
		100.0%	9.5%	42.6%	34.9%	13.0%	0.0%
	30～39歳	275	19	126	96	33	1
		100.0%	6.9%	45.8%	34.9%	12.0%	0.4%
	40～49歳	339	28	146	118	46	1
		100.0%	8.3%	43.1%	34.8%	13.6%	0.3%
	50～59歳	378	35	158	113	68	4
		100.0%	9.3%	41.8%	29.9%	18.0%	1.1%
	60～69歳	544	30	185	219	103	7
		100.0%	5.5%	34.0%	40.3%	18.9%	1.3%
	70～79歳	359	19	100	128	92	20
		100.0%	5.3%	27.9%	35.7%	25.6%	5.6%

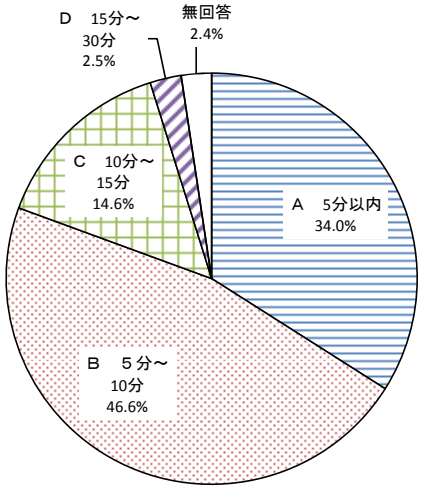
【電停：全体の割合】　N=2,068



（上段：人　下段：%）

		合　計	A	B	C	D	無回答
全体合計		2,068	263	919	572	206	108
		100.0%	12.7%	44.4%	27.7%	10.0%	5.2%
年齢区分別	18～29歳	169	30	68	51	19	1
		100.0%	17.8%	40.2%	30.2%	11.2%	0.6%
	30～39歳	275	35	134	80	21	5
		100.0%	12.7%	48.7%	29.1%	7.6%	1.8%
	40～49歳	339	36	189	83	23	8
		100.0%	10.6%	55.8%	24.5%	6.8%	2.4%
	50～59歳	378	57	170	106	36	9
		100.0%	15.1%	45.0%	28.0%	9.5%	2.4%
	60～69歳	544	68	219	166	58	33
		100.0%	12.5%	40.3%	30.5%	10.7%	6.1%
	70～79歳	359	37	138	86	48	50
		100.0%	10.3%	38.4%	24.0%	13.4%	13.9%

【バス停：全体の割合】　N=2,068



（上段：人　下段：%）

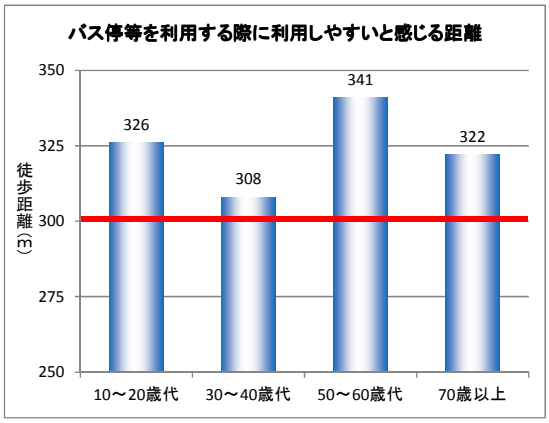
		合　計	A	B	C	D	無回答
全体合計		2,068	703	964	301	51	49
		100.0%	34.0%	46.6%	14.6%	2.5%	2.4%
年齢区分別	18～29歳	169	63	80	23	2	1
		100.0%	37.3%	47.3%	13.6%	1.2%	0.6%
	30～39歳	275	115	125	30	3	2
		100.0%	41.8%	45.5%	10.9%	1.1%	0.7%
	40～49歳	339	139	163	31	3	3
		100.0%	41.0%	48.1%	9.1%	0.9%	0.9%
	50～59歳	378	144	169	53	9	3
		100.0%	38.1%	44.7%	14.0%	2.4%	0.8%
	60～69歳	544	148	257	101	21	17
		100.0%	27.2%	47.2%	18.6%	3.9%	3.1%
	70～79歳	359	94	168	63	13	21
		100.0%	26.2%	46.8%	17.5%	3.6%	5.8%

【第 2 次熊本市都市マスタープラン　地域別構想（平成 26 年 3 月策定）】P161～162

【路線バス】

路線バスに関しては、公共交通基本条例制定にあたり実施された「公共交通利用者アンケート調査」から、公共交通利用者がバス停等を利用する際に利用しやすいと感じる距離をもとに、**概ね 300m 圏**を居住促進エリアとして設定しました。

バス停までの距離が概ね 300m は、年代によって大きな違いも見られず、一般の人のみならず、高齢者の人も利用しやすい環境となっています。



資料）第 1 回公共交通基本条例部会

【鉄道（JR・熊本電鉄）】

鉄道に関しては、路線バスと比較して定時性や輸送力に優れることから、バス停よりも広域な勢力圏として、**概ね 500m 圏**と設定しました。

【軌道（市電）】

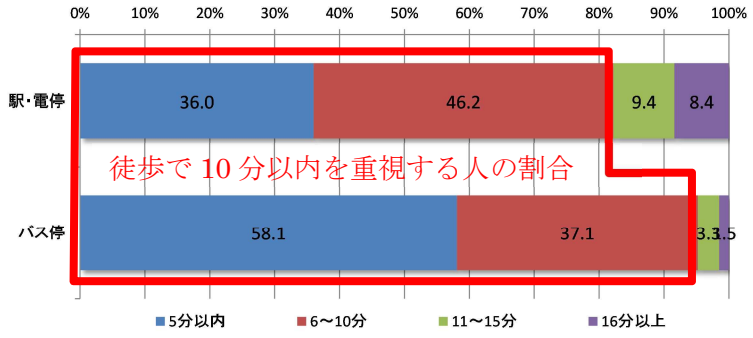
軌道に関しては専用の軌道レーンを有しており、路線バスと比較しても運行頻度が比較的高いとともに、中心市街地や地域拠点など重要な市街地内を運行していることから、鉄道と同様に、**概ね 500m圏**と設定しました。

※一般の人の歩行速度 80m/分、高齢者の人の歩行速度を 60m/分とした場合、500m は一般の人が約 6 分、高齢者が約 8 分になります。

【転居先の場所を選択する際の駅・電停及びバス停までの徒歩時間】

○市民の方々が転居先の場所を選択する際に重要視する項目として、「駅・電停までの距離」・「バス停までの距離」を「重視する・やや重視する」と回答した人の徒歩時間は、10 分以内が 8～9 割となっています。

○そのうち「重視する」と回答した人の平均所要時間は、駅・電停までが 8.6 分、バス停までが 6.7 分となっており、【鉄軌道 500m圏：一般の人で約 6 分、高齢者で約 8 分】と【バス停 300m圏：一般の人で約 4 分、高齢者で約 5 分】はその距離帯（時間帯）に含まれるため、概ね妥当と考えられます。

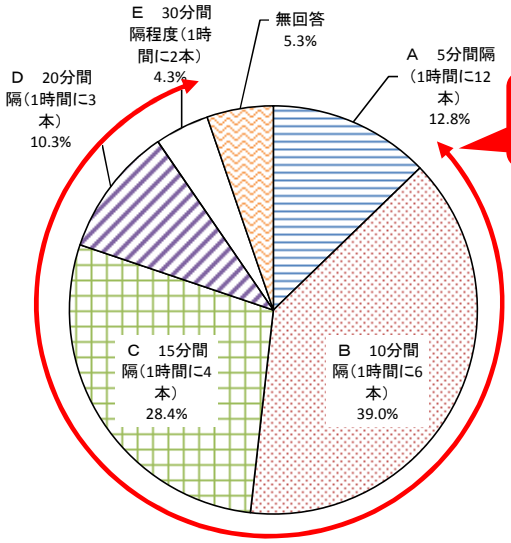


資料）第 4 回熊本都市圏 PT 調査結果

問７　バスの運行間隔として、あなたは何分間隔まで許容できますか。

●急いでいる時（ピーク時）は 10 分間隔以内で 8 割が許容し、急いでいない時は 15 分間隔以内で 8 割が許容する状況である。
●なお、年齢別では若い世代ほどより多くの運行本数を希望している状況である。

【急いでいる時：全体の割合】　N=2,068

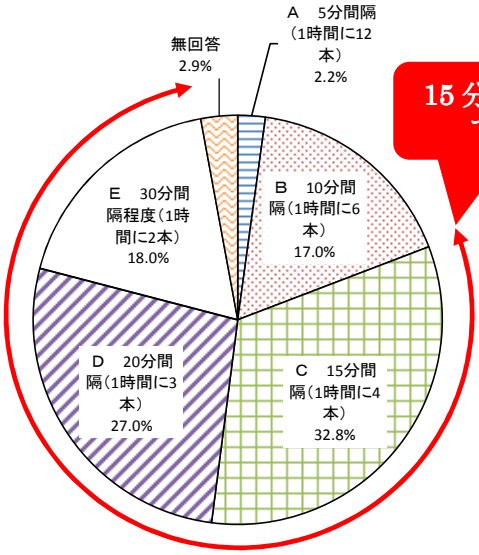


10 分間隔で満足する割合

（上段：人　下段：%）

		合　計	A	B	C	D	E	無回答
全体合計		2,068	264	807	587	212	89	109
		100.0%	12.8%	39.0%	28.4%	10.3%	4.3%	5.3%
年齢区分別	18～29歳	169	27	81	40	11	7	3
		100.0%	16.0%	47.9%	23.7%	6.5%	4.1%	1.8%
	30～39歳	275	42	114	83	28	6	2
		100.0%	15.3%	41.5%	30.2%	10.2%	2.2%	0.7%
	40～49歳	339	57	165	90	18	4	5
		100.0%	16.8%	48.7%	26.5%	5.3%	1.2%	1.5%
	50～59歳	378	56	156	110	38	13	5
		100.0%	14.8%	41.3%	29.1%	10.1%	3.4%	1.3%
	60～69歳	544	59	181	170	69	31	34
		100.0%	10.8%	33.3%	31.3%	12.7%	5.7%	6.3%
	70～79歳	359	23	110	94	47	28	57
		100.0%	6.4%	30.6%	26.2%	13.1%	7.8%	15.9%

【急いでいない時：全体の割合】　N=2,068



15 分間隔で満足する割合

（上段：人　下段：%）

		合　計	A	B	C	D	E	無回答
全体合計		2,068	45	352	679	559	373	60
		100.0%	2.2%	17.0%	32.8%	27.0%	18.0%	2.9%
年齢区分別	18～29歳	169	4	23	65	49	25	3
		100.0%	2.4%	13.6%	38.5%	29.0%	14.8%	1.8%
	30～39歳	275	6	41	100	75	51	2
		100.0%	2.2%	14.9%	36.4%	27.3%	18.5%	0.7%
	40～49歳	339	7	58	137	89	44	4
		100.0%	2.1%	17.1%	40.4%	26.3%	13.0%	1.2%
	50～59歳	378	10	70	115	102	79	2
		100.0%	2.6%	18.5%	30.4%	27.0%	20.9%	0.5%
	60～69歳	544	9	96	163	150	107	19
		100.0%	1.7%	17.6%	30.0%	27.6%	19.7%	3.5%
	70～79歳	359	9	64	99	94	65	28
		100.0%	2.5%	17.8%	27.6%	26.2%	18.1%	7.8%

・「急いでいる」ときの全体合計における平均運行本数は**約 5.7 本/時≒6 本/時**。
・「急いでいない」ときの全体合計における平均運行本数は**約 3.9 本/時≒4 本/時**。
・上記を基に、バスの運行時間帯を 6～22 時台と設定し、急いているとき（ピーク時）を 7～8 時台、17～18 時台で 6 本/時、急いでいないおき（オフピーク時）をその他時間帯で 4 本/時とした場合、**1 日あたりの運行本数は 76 本/日**となる。

時間帯（時台）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
運行本数（本/時）	4	6	6	4	4	4	4	4	4	4	4	6	6	4

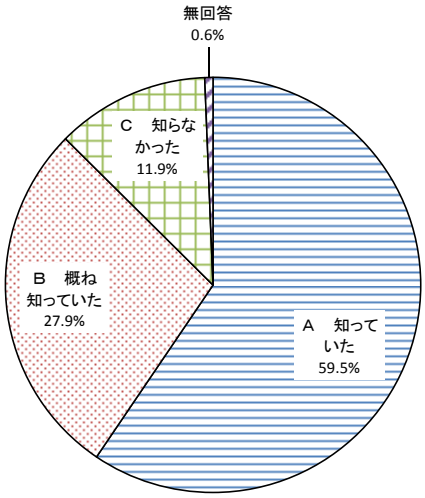
時間帯（時台）	20	21	22	合計
運行本数（本/時）	4	4	4	76

問８　あなたは、熊本市の人口が将来減少見込みであること、また少子高齢化が進展見込みであることについて知っていましたか。（１つだけ）

●人口減少・少子高齢化の進展見込みを「知っていた」「概ね知っていた」割合は約 88%であり、約 12%が知らなかったと回答している。

●なお、年齢別では、39 歳以下において知らなかった人の割合が高く、若い世代に対する周知が必要である。

【全体の割合】　N=2,068



（上段：人　下段：%）

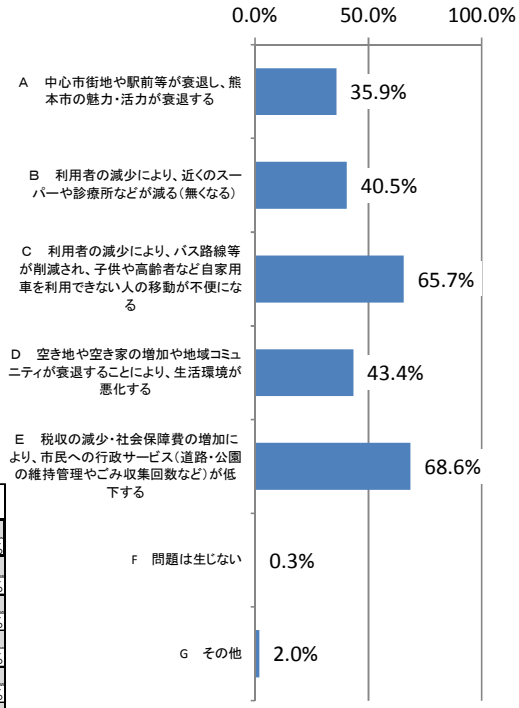
		合　計	A	B	C	無回答
全体合計		2,068	1,230	578	247	13
		100.0%	59.5%	27.9%	11.9%	0.6%
年齢区分別	18～29歳	169	73	47	49	0
		100.0%	43.2%	27.8%	29.0%	0.0%
	30～39歳	275	123	98	54	0
		100.0%	44.7%	35.6%	19.6%	0.0%
	40～49歳	339	177	114	48	0
		100.0%	52.2%	33.6%	14.2%	0.0%
	50～59歳	378	231	108	38	1
		100.0%	61.1%	28.6%	10.1%	0.3%
	60～69歳	544	371	127	41	5
		100.0%	68.2%	23.3%	7.5%	0.9%
	70～79歳	359	253	84	17	5
		100.0%	70.5%	23.4%	4.7%	1.4%

問９　あなたは、人口減少・超高齢社会が進展すると、具体的にどういった問題が生じると思いますか。（３つまで）

●「税収の減少・社会保障費の増加により、市民への行政サービスが低下する」が約 69%と最も多く、次いで「利用者の減少により、バス路線等が削減され、子供や高齢者など自家用車を利用できない人の移動が不便になる」が同程度に多い状況である。

●なお、年齢別では、高齢者ほど地域コミュニティの衰退に対する危機感が高い状況である。

【全体の割合】　N=2,068

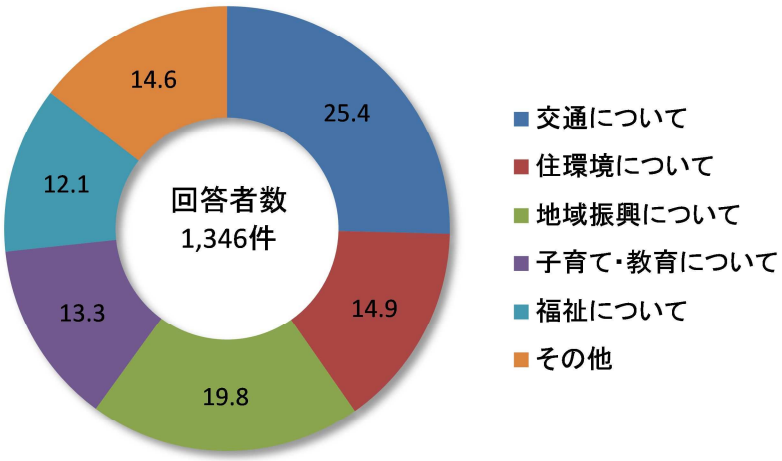


（上段：人　下段：%）

		合　計	A	B	C	D	E	F	G
全体合計		2,068	742	837	1,358	897	1,418	7	41
			35.9%	40.5%	65.7%	43.4%	68.6%	0.3%	2.0%
年齢区分別	18～29歳	169	69	67	104	47	113	3	6
			40.8%	39.6%	61.5%	27.8%	66.9%	1.8%	3.6%
	30～39歳	275	108	96	154	106	218	1	8
			39.3%	34.9%	56.0%	38.5%	79.3%	0.4%	2.9%
	40～49歳	339	133	117	221	145	258	0	10
			39.2%	34.5%	65.2%	42.8%	76.1%	0.0%	2.9%
	50～59歳	378	130	157	263	179	273	1	7
			34.4%	41.5%	69.6%	47.4%	72.2%	0.3%	1.9%
	60～69歳	544	177	253	372	258	349	0	8
			32.5%	46.5%	68.4%	47.4%	64.2%	0.0%	1.5%
	70～79歳	359	125	145	243	161	206	2	2
			34.8%	40.4%	67.7%	44.8%	57.4%	0.6%	0.6%

問１０　今後の熊本市のまちづくりについて、あなたが望むことをご記入ください。
（自由記載）

●今後の熊本市のまちづくりに求める事項としては、「交通について」の意見が最も多く、高齢時代における移動手段の確保に対する意識等が高いことが伺える。
●その他、住環境や地域振興、子育て・教育などに関しても同程度の意見が挙がっている。



【主な意見】

①交通について

（自動車交通について）

・朝夕ラッシュ区間（渋滞区間）はほぼ決まっているので、その改善をしてほしいです

（公共交通について）

・公共交通網の充実。熊本は良いところが「点」としてはあるが、「線」として繋がっていない。

・公共交通機関の充実（維持）と本数の適正化は、車を持たない者の自由に大きく関わってくると思うので、更なる充実を望みます。

（自転車等について）

・熊本は大半の高校生が自転車通学です。せめて高校周辺は自転車優先の整備を希望します。

・高齢化が進むと徒歩や自転車などで移動する人が増える。歩道と自転車の道を明確に分けてほしい。

②住環境について

・ひとり暮らしでも安心して生活できるよう、地域の安全、コミュニケーションの場があればいいと思います。

・10 分くらい（徒歩）で買い物に行けるスーパーがあり、診療所（総合～外科内科）がある街づくりを望みます。　　など

③地域振興について

・熊本駅前を賑やかにしてほしいです。熊本の顔でもあるので、人の行き来で活性化を願いたいです。

・Ｕターン、Ｉターン等による若い人口の流入、若い人たちが起業しやすい行政のサポート等。　など

④子育て・教育について

・子どもを出産してもすぐ働けるよう、保育園の充実。それに働く時間の短縮（子供が小学卒業するまで）。

・子どもをよりよく育てる為のコミュニティも必要と思います。　　など

④福祉について

・高齢化により生ずる弱者が生活しやすいような環境づくり。

・若い世代と高齢者が、お互いに協力し支えられるまちづくりを望みたい。　　など

巻末１－２　市民懇話会結果

【開催概要】

開催日	開催時間	会場	参加者数
8月5日（水）	14～16時	北部公民館　ホール	6名
8月6日（木）	14～16時	清水公民館　ホール	9名
8月7日（金）	14～16時	植木文化センター　多目的ホール	8名
8月9日（日）	10～12時	秋津公民館　ホール	8名
〃	14～16時	東部公民館　ホール	5名
8月11日（火）	14～16時	南部公民館　ホール	4名
8月18日（火）	19～21時	龍田公民館　ホール	14名
8月19日（水）	10～12時	託麻公民館　ホール	14名
8月19日（水）	19～21時	飽田公民館　ホール	4名
8月20日（木）	19～21時	アスパル富合　研修室1-3	2名
8月21日（金）	10～12時	熊本市役所　14F大ホール	29名
8月25日（火）	14～16時	城南総合出張所　3F会議室	5名
8月26日（水）	14～16時	幸田公民館　ホール	9名
8月27日（木）	19～21時	西部公民館　ホール	9名
8月28日（金）	10～12時	天明公民館　ホール	1名
〃	19～21時	花園公民館　ホール	7名
合計			134名

○参加者の性別

男性：約89%、女性：約11%

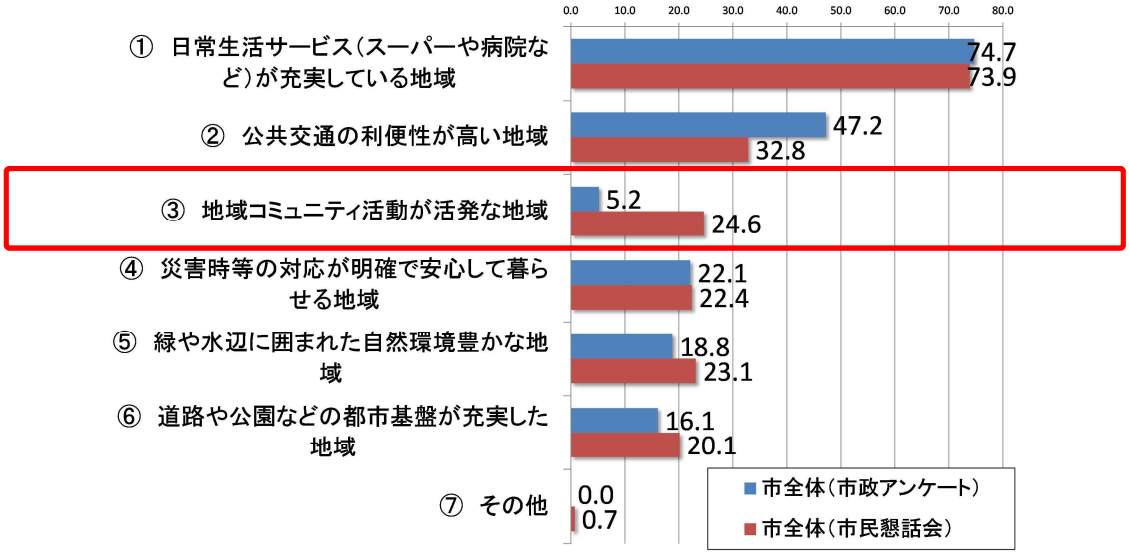
○参加者の年代

10代：0.8%、20代：6.1%、30代：0%、40代：2.3%、50代：2.3%、60代：41.2%、70代：42.0%、80代以上：5.3%

※主に自治会長に参加いただいたため、60代以上で約89%を占める状況。

問１　あなたは、どのような地域に住みたいですか。（２つまで○）

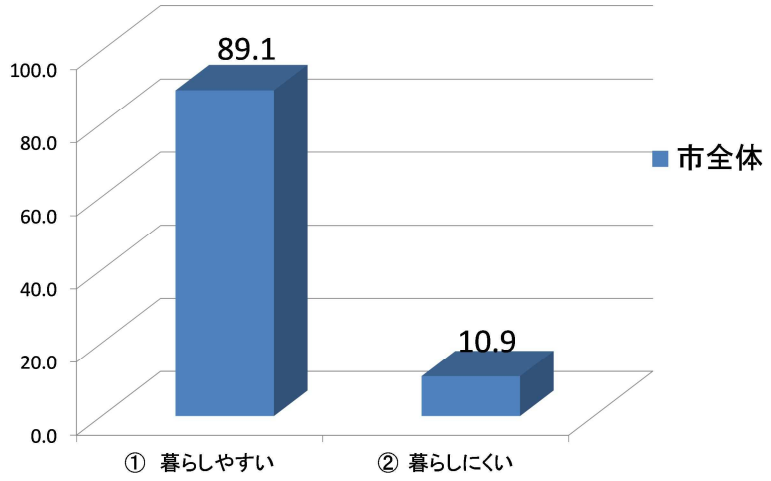
●市民の多くは、施設が充実した地域や公共交通の利便性が高い地域に住みたいと回答しており、本市が目指す多核連携都市の方向性と合致している。
●なお、市政アンケート結果と比較した場合、「地域コミュニティ活動が活発な地域」が高く、市民懇話会への参加者が自治会長などが多かった影響である。



	市全体（市政アンケート）	市全体（市民懇話会）	市全体（市政アンケート）	市全体（市民懇話会）
①　日常生活サービス（スーパーや病院など）が充実している地域	1,544	99	74.7	73.9
②　公共交通の利便性が高い地域	977	44	47.2	32.8
③　地域コミュニティ活動が活発な地域	108	33	5.2	24.6
④　災害時等の対応が明確で安心して暮らせる地域	458	30	22.1	22.4
⑤　緑や水辺に囲まれた自然環境豊かな地域	388	31	18.8	23.1
⑥　道路や公園などの都市基盤が充実した地域	332	27	16.1	20.1
⑦　その他	17	1	0.0	0.7
合計	2,068	134		

問２　現在住んでいる地域は暮らしやすいですか。
→　問３・４　暮らしやすい・暮らしにくい理由。

●現在住んでいる地域に対して「暮らしやすい」と回答した人が約９割を占めており、本市が暮らしやすい都市であることが伺える。
●暮らしやすい主な理由は、「日常生活サービスが充実している」や「公共交通等の利便性が高い」などが多く、今後もこれらを維持していくことが重要である。
●一方、暮らしにくい理由としては、地域コミュニティや道路渋滞などに対する意見が多く、今後はこれらの解消も求められる。



【「暮らしやすい」主な理由】
・スーパーや病院など日常生活サービスが充実している
・公共交通等の利便性が高い
・緑や水辺に囲まれて自然環境が豊か　など

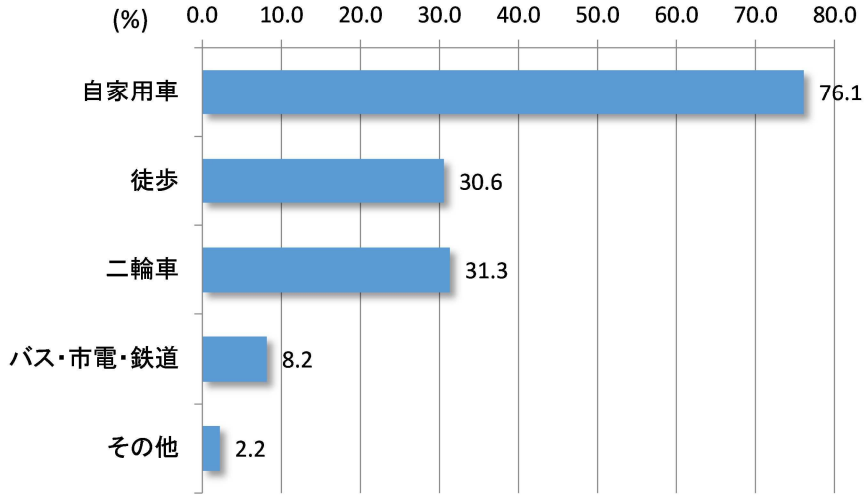
【「暮らしにくい」主な理由】
・地域のコミュニケーションがとりにくい
・住宅地内の道路が狭いとともに、通過交通の自動車が多い
・空港や中心部までのアクセスに時間がかかる　など

問５　日常生活においてどこに行っていますか。
（１）食料品の買い物（２～３施設）
（２）風邪等でかかる病院（２～３施設）
（３）銀行・郵便局（２～３施設）
（４）その他（介護施設など）（２～３施設）

⇒ **巻末１－３（巻 15）で示す地域生活圏の設定に活用**

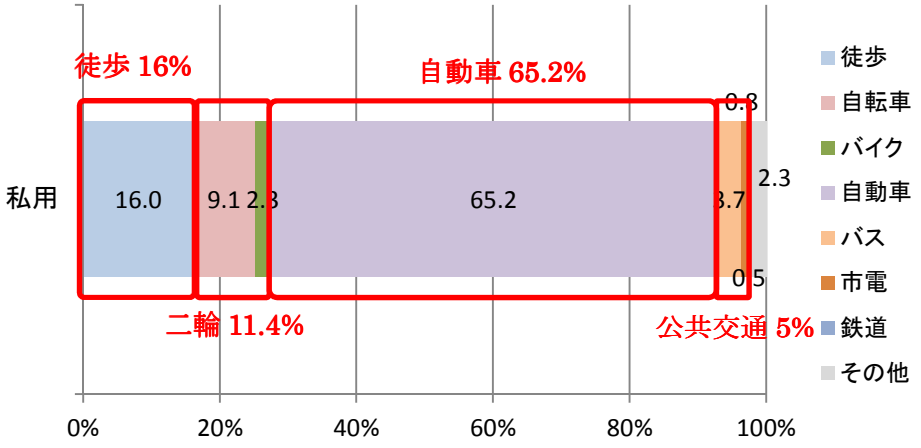
問６　問５の施設を利用する際の主な交通手段は何ですか。

●日常生活施設等への交通手段では、「自家用車」が約 76%を占めており自動車への依存度が非常に高いことが伺える。
●一方、バス・市電・鉄道の公共交通は約 8%と少ない状況である。



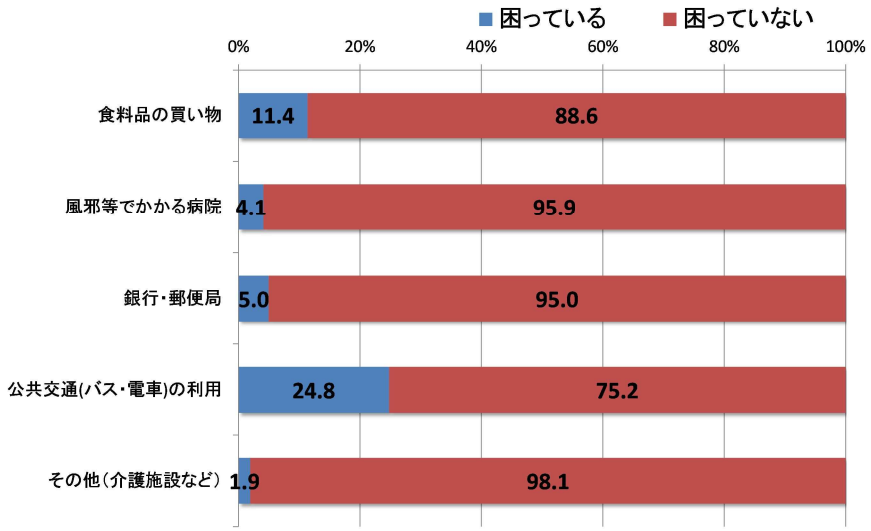
回答者数		自家用車	徒歩	二輪車	バス･市電･鉄道	その他
134	人	102	41	42	11	3
	%	76.1	30.6	31.3	8.2	2.2

・第 4 回熊本都市圏 PT 調査（H24 年）における「私用」目的の代表交通手段トリップ構成比では、自動車が約 65%を占めており、バス・市電・鉄道の公共交通は 5%と少ない状況である。



問７　日常生活で困っている事はありますか。

●日常生活においては、「公共交通（バス・電車）の利用」に対して困っている人が約 25%と高く、その理由としてはサービス水準に対する意見が多かった。
●その他、「食料品の買い物」に対しては近くにスーパー等がなく困っているとの意見があった。
●なお、現在は困っていないが将来的に自動車免許等を返納した場合や小中学生などの移動を考えた場合には困るとの意見も伺えた。



	困っている（人）	困っていない（人）	困っている（%）	困っていない（%）
食料品の買い物	14	109	11.4	88.6
風邪等でかかる病院	5	117	4.1	95.9
銀行・郵便局	6	115	5.0	95.0
公共交通(バス・電車)の利用	31	94	24.8	75.2
その他（介護施設など）	2	101	1.9	98.1

【困っている点の主な意見】

〇食料品の買い物

・お店まで遠く、たくさん買いたいときに買えない。（大きいものを持って帰るのが大変）
・直ぐ近くにはコンビニや八百屋しかなく、スーパーまで時間がかかる。　　など

〇公共交通（バス・電車）の利用

・バス路線が分かりにくい。
・サービス水準が低い（昼間は１時間に１本、バスの定時性が悪いなど）　　など

問９　あなたが住んでいる地域を暮らしやすくするためには、どういった取り組みが必要ですか。

●地域コミュニティ活動などの充実に対する意見が多く、多核連携都市の実現とあわせて、地域力の向上は必須であり、国が進める地方創生にも繋がると考えられる。
●その他、歩道整備や交通渋滞の解消など、都市基幹整備に対する意見も多く伺えた。

【主な意見】
・若い人達など、住民の地域行事等への参加意欲の高揚及び地域のまとまり。（地域コミュニティの充実）
・歩道の整備やバリアフリー化の推進。
・都市高速及び地下鉄等の交通システムの導入による交通渋滞の解消。　　など

問１０　多核連携都市づくりに対する意見。

●本市が進める多核連携都市づくりに対しては、将来的な少子高齢化・人口減少時代を考えた場合、持続可能な都市経営や健康増進などの観点から、市民も総じて賛成の方向性であった。
●ただし、多核連携都市づくりを進めるに際しては、公共交通の充実や交通渋滞の解消、さらには歩きやすい環境づくりが必要と言う意見が多くあった。

【多核連携都市づくりに対する主な意見（賛成意見）】
・コスト面において全体の整備を考えると良いと思う。
・歩いて暮らすライフスタイルは健康づくりにもつながるし、健康都市として内外に PR が必要。
・これからの時代に対応するための１つの手段としては、より進めて行く必要がある。　　など

【多核連携都市づくりを進めるに際しての主な意見】
・高齢化が進む中で公共交通機関の果たす役割は大きいので、利用しやすい仕組みが大切である。
・環状道路の充実が必要である。
・歩く人に対して安心して歩ける歩道の整備が必要である。
・歩くだけでなく、自転車や高齢者が利用する自動三輪車へ対応した道路整備も必要。　　など

問１１　郊外部の維持活性化に向けた意見。

●多核連携都市づくりを進める一方、郊外部の維持活性化に対する意見も多く、人材面や若者が暮らしやすい地域づくりへの意見、さらには地域コミュニティの充実に対する意見が多くあった。

【郊外部の維持活性化に向けた主な意見】
・過疎的な地域に住む人の取り扱いを十分検討してもらいたい。
・人材の教育、子供が多くなる様に若者が暮らしやすい地域にする。
・今まで住んでいた人と新しく転入した人との交流。　　など

巻末１－３　市政アンケート及び市民懇話会の地域生活圏ごとの整理

（１）地域生活圏の設定

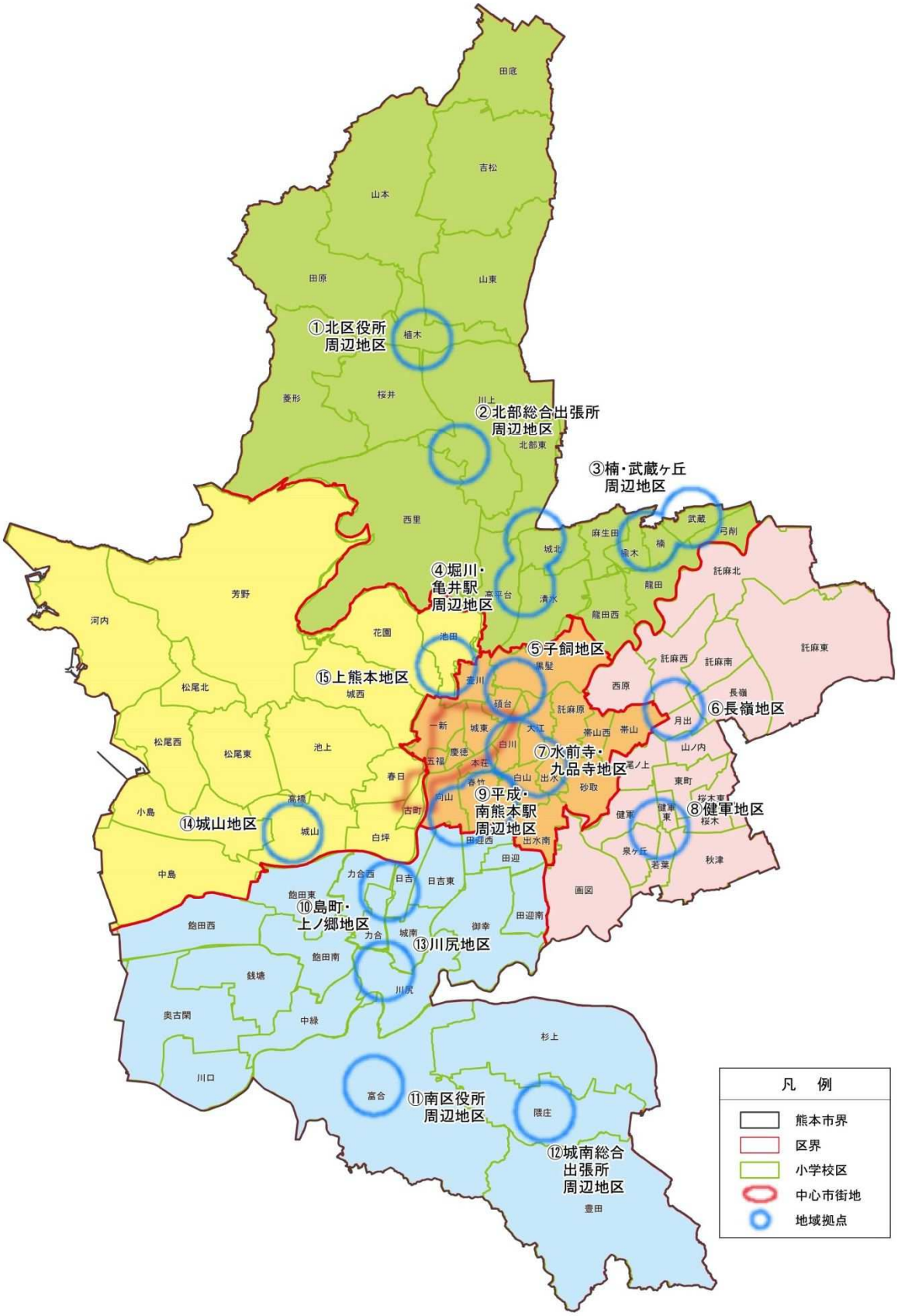
市民懇話会における問５「日常生活においてどこに行っていますか？」の小学校区別の主な行先や第 4 回熊本都市圏パーソントリップ調査結果を基に、15 の地域拠点並びに中心市街地に対する地域生活圏（対象小学校区）の設定を行った。

なお、小学校区によっては複数の地域拠点に対する地域生活圏となっている。

【地域拠点別の小学校区一覧】

	地域拠点	小学校区
1	北区役所周辺（8校区）	田底
		吉松
		山東
		山本
		田原
		植木
		桜井
		菱形
2	北部総合出張所周辺（3校区）	川上
		西里
		北部東
3	楠・武蔵ヶ丘周辺（7校区）	龍田
		龍田西
		弓削
		武蔵
		楠
		楡木
		麻生田
4	堀川・亀井駅周辺（5校区）	高平台
		清水
		城北
		麻生田
		北部東
5	子飼（5校区）	黒髪
		碩台
		壺川
		白川
		大江
6	長嶺（10校区）	託麻北
		託麻東
		託麻南
		託麻西
		長嶺
		月出
		西原
		帯山
		帯山西
		山ノ内
7	水前寺・九品寺（9校区）	砂取
		出水
		出水南
		白山
		白川
		大江
		託麻原
		帯山
		帯山西
8	健軍（11校区）	山ノ内
		尾ノ上
		東町
		健軍東
		桜木
		秋津
		泉ヶ丘
		健軍
		桜木東
		若葉
		画図
9	平成・南熊本駅周辺（9校区）	田迎
		田迎西
		田迎南
		御幸
		春竹
		本荘
		向山
		日吉
		日吉東
10	島町・上ノ郷（13校区）	日吉
		日吉東
		力合
		力合西
		城南
		御幸
		飽田東
		飽田西
		飽田南
		銭塘
		中緑
		奥古閑
		川口
11	南区役所周辺（1校区）	富合
12	城南総合出張所周辺（3校区）	杉上
		隈庄
		豊田
13	川尻（9校区）	川尻
		城南
		飽田東
		飽田西
		飽田南
		銭塘
		中緑
		奥古閑
		川口
14	城山（20校区）	城山
		高橋
		池上
		小島
		中島
		松尾北
		松尾西
		松尾東
		河内
		春日
		古町
		白坪
		芳野
		飽田東
		飽田西
		飽田南
		銭塘
		中緑
		奥古閑
		川口
15	上熊本（5校区）	花園
		池田
		城西
		河内
		芳野
16	中心市街地（7校区）	城東
		慶徳
		五福
		一新
		碩台
		古町
		春日

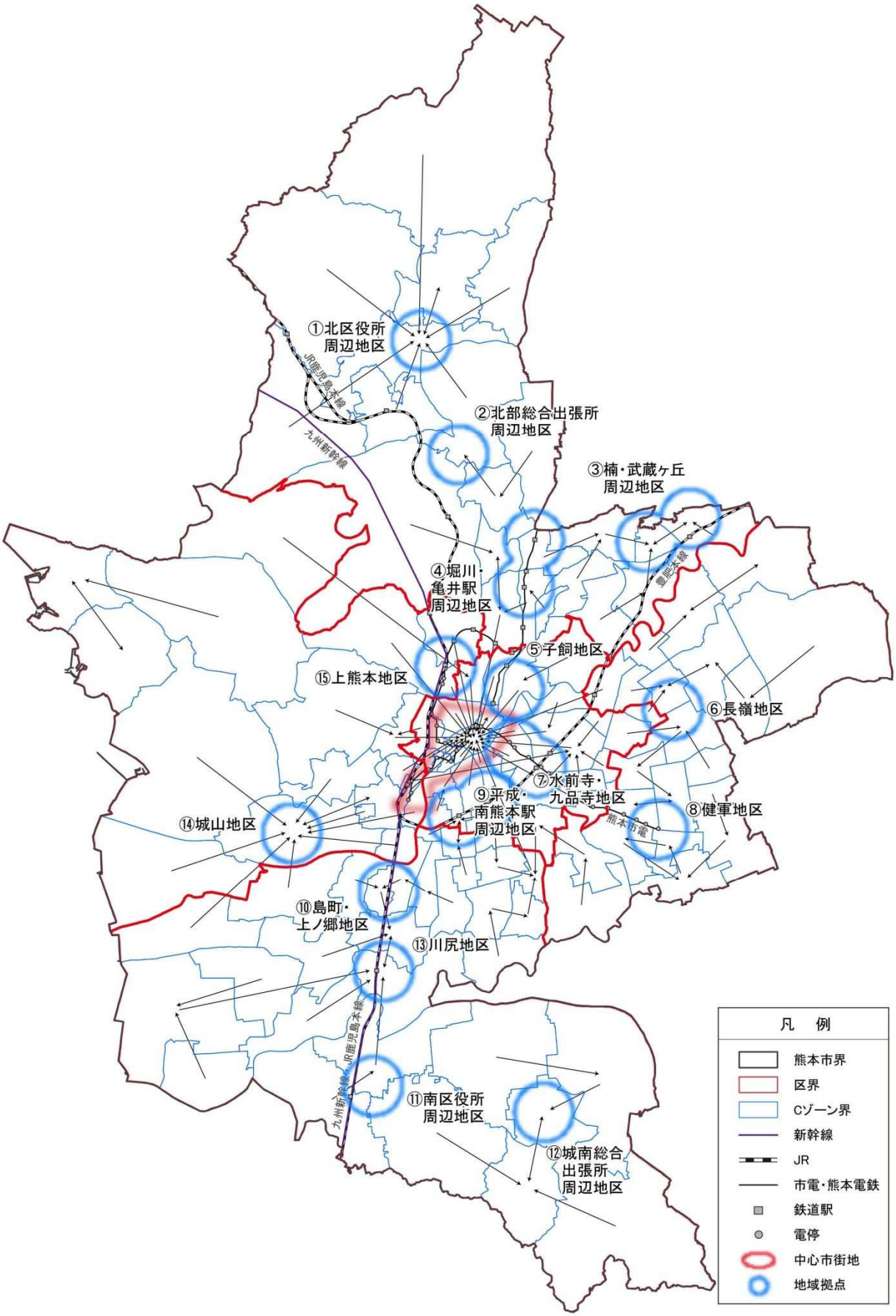
【参考：熊本市の小学校区（※今後分校予定の龍田西を含む）】



【第４回熊本都市圏パーソントリップ調査結果による私用目的の人の動き】

※私用目的：買い物、食事・社交・娯楽、観光・行楽・レジャー、散歩・ジョギング、通院、送迎など

※パーソントリップ調査におけるＣゾーンを基本に、出発地ゾーンから最大のトリップ数である目的地ゾーンを抽出し、図化したもの。



【市民懇話会結果による小学校区の地域生活圏設定根拠】

	主な食料品の買い物先	方面	病院の行先	方面	銀行・郵便局の行先	方面
1	北区役所周辺（8校区）：田底、吉松、山東、山本、田原、植木、桜井、菱形					
	植木中心部、鮮度市場、ウエッキーなど	北区役所	植木病院、桑原内科、寺尾病院など	北区役所	肥後銀行、熊本銀行、植木郵便局など	北区役所
2	北部総合出張所周辺（3校区）：川上、西里、北部東					
	マルエイ、ヒロセ、鮮度市場など	北区役所、堀川・亀井	熊本機能病院、四方寄クリニックなど	北部総合出張所、堀川・亀井	肥後銀行北部町支店、北部郵便局など	北部総合出張所
3	楠・武蔵ヶ丘周辺（6校区）：龍田、弓削、武蔵、楠、楡木、麻生田					
	フーディーワン、ムサシプラザ、ゆめタウン光の森など	楠・武蔵ヶ丘、菊陽	三の宮内科、小堀胃腸科外科、武蔵ヶ丘病院など	楠・武蔵ヶ丘	肥後銀行、熊本銀行など	楠・武蔵ヶ丘
4	堀川・亀井駅周辺（5校区）：高平台、清水、城北、麻生田、北部東					
	ダイレックス、ゆめマート、鮮度市場など	堀川・亀井駅	熊本機能病院、斎藤病院、河本クリニックなど	堀川・亀井駅	肥後銀行、高平郵便局、清水郵便局など	堀川・亀井駅
5	子飼（5校区）：黒髪、碩台、壺川、白川、大江					
	近所のスーパー、エース上熊本店、マックスバリューなど	子飼、上熊本	柴田内科、石神クリニックなど	子飼	肥後銀行京町支店、京町郵便局など	子飼、上熊本
6	長嶺（10校区）：託麻北、託麻東、託麻南、託麻西、長嶺、月出、西原、帯山、帯山西、山ノ内					
	ゆめタウンサンピアン、マックスバリュー、マルショクなど	長嶺、水前寺・九品寺	西日本病院、日赤、東熊本第二病院など	長嶺	肥後銀行、熊本銀行、各郵便局など	長嶺、水前寺・九品寺
7	水前寺・九品寺（9校区）：砂取、出水、出水南、白山、白川、大江、託麻原、帯山、帯山西					
	ゆめマート、ロッキー水前寺店、サニー水前寺店など	水前寺・九品寺	帯山中央病院、小島医院など	水前寺・九品寺	肥後銀行水前寺支店・県庁支店など	水前寺・九品寺
8	健軍（11校区）：山ノ内、尾ノ上、東町、健軍東、桜木、秋津、泉ヶ丘、健軍、桜木東、若葉、画図					
	健軍商店街、サンリブ、鮮度市場など	健軍	日赤、福島医院、北野クリニックなど	健軍、長嶺	肥後銀行、各郵便局など	健軍、長嶺
9	平成・南熊本駅周辺（10校区）：田迎、田迎西、田迎南、御幸、春竹、本荘、向山、日吉、日吉東、御幸					
	サンリブくまなん、フーディーワン、ダイノブなど	平成・南熊本駅	東病院、熊本中央病院、熊本内科病院など	平成・南熊本駅	肥後銀行、各郵便局など	平成・南熊本駅
10	島町・上ノ郷（13校区）：日吉、日吉東、力合、力合西、城南、御幸、飽田東、飽田西、飽田南、銭塘、中緑、奥古閑、川口					
	サンリブくまなん、マックスバリュー、パディマーケットなど	平成・南熊本駅、島町・上ノ郷、城山	済生会病院、御幸病院、前野病院など	平成・南熊本駅、島町・上ノ郷	肥後銀行、各郵便局など	平成・南熊本駅、島町・上ノ郷
11	南区役所周辺（1校区）：富合					
	サンリブくまなん、川尻鮮度市場、宇土シティなど	平成・南熊本駅、川尻	成松病院、川尻方面など	南区役所、川尻	肥後銀行川尻支店、守富郵便局など	南区役所、川尻
12	城南総合出張所周辺（3校区）：杉上、隈庄、豊田					
	スーパーダイノブ、シーズ、ニシダなど	城南総合出張所	西村脳神経外科、大隈整形外科、吉村内科など	平成・南熊本駅、城南総合出張所	肥後銀行、熊本銀行、JA、各郵便局など	城南総合出張所
13	川尻（9校区）：川尻、城南、飽田東、飽田西、飽田南、銭塘、中緑、奥古閑、川口					
	パディマーケット、エース、ゆめマートなど	島町・上ノ郷、城山	南部中央病院、深水医院、木村医院など	島町・上ノ郷、川尻	肥後銀行、JA、各郵便局など	島町・上ノ郷、城山、川尻
14	城山（20校区）：城山、高橋、池上、小島、中島、松尾北、松尾西、松尾東、河内、春日、古町、白坪、芳野、飽田東、飽田西、飽田南、銭塘、中緑、奥古閑、川口					
	パディマーケット、ヒロセ、ゆめマートなど	城山	西部脳神経外科、池田内科、杉野クリニックなど	城山	肥後銀行、各郵便局など	城山
15	上熊本（5校区）：花園、池田、城西、河内、芳野					
	上熊本のエース、コスモス、ゆめマートなど	上熊本	花園クリニック、青磁野病院、慈恵病院など	上熊本	肥後銀行、熊本銀行、各郵便局など	上熊本
16	中心市街地（7校区）：城東、慶徳、五福、一新、碩台、古町、春日					
	ゆめマート新町店、イオン田崎店など	中心市街地	熊本内科病院、服部胃腸科、桜町クリニックなど	中心市街地	肥後銀行、各郵便局など	中心市街地

（２）地域生活圏の暮らしやすさ

	暮らしやすさ	暮らしやすいと感じる理由（プラス面）	暮らしにくいと感じる理由（マイナス面）	その他
植木地区 （北区役所周辺）	●暮らしやすい：5 名 ●暮らしにくい：3 名	・自然豊かで、住民同士も協力的で助け合える。 ・日常生活の利便性が高い。　など	・道路が狭くて離合できない。国道 3 号が渋滞している。 ・国道 3 号まで出ないとバスに乗れない。　など	・高齢者が多く、その方々の今後の生活が心配 ・農業集落の維持活性化が必要 ・植木駅の整備が必要　など
北部地区 （北部総合出張所周辺）	●暮らしやすい：4 名 ●暮らしにくい：2 名	・中心部や光の森などへアクセスが良い。 ・コミュニティ活動が活発である。 ・自然がいっぱい　など	・バスの運行本数が少ない。 ・スーパー等が近くになく不便。　など	・西環状道路完成による 3 号の渋滞を懸念。 ・3 号線の二車線化を希望 ・西里駅の整備が必要　など
楠・武蔵ヶ丘地区 （楠・武蔵ヶ丘周辺）	●暮らしやすい：13 名 ●暮らしにくい：1 名	・日常生活の利便性が高い。静かである。 ・道路などの都市基盤が充実している。 ・公共交通などの交通の便が良い。　など	・交通渋滞がひどい ・高齢者が歩ける環境ではない。　など	・北区役所へのアクセスが不便 ・空き家の対策が必要 ・古くに開発されたニュータウンへの対策必要
八景水谷・清水亀井地区 （堀川・亀井駅周辺）	●暮らしやすい：11 名 ●暮らしにくい：1 名	・日常生活や公共交通の利便性が高い。 ・中心部へすぐに行ける。 ・遊水地公園があるなど散歩等の環境も良い。　など	・坂が多く道路が狭いため交通事故等危険が多い。 ・3 号が渋滞している　など	・高齢化が進んでおり歩ける環境が必要 ・北区役所へのアクセスが不便。 ・駅や空港へのアクセス性の向上が必要　など
子飼地区	●暮らしやすい：2 名 ●暮らしにくい：1 名	・商店等が近くにあり便利。 ・中心部に近いのに静かで、交通の便が良い　など	・マンション等の住民が多くなり地域間のつながりがよくない。 ・道路が狭い。　など	・バスを待つ環境の向上が必要。 ・歩くことは健康にも良い。 ・子飼への市電の復活　など
長嶺地区	●暮らしやすい：17 名 ●暮らしにくい：0 名	・日常生活や公共交通の利便性が高い。 ・自然が身近で子どもが多く活気がある。 ・地形的に災害等の心配が少ない。　など	・中心部以外に公共交通で行きにくい。 ・地域のコミュニケーションが不足している。　など	・タクシー券などの活用が必要。 ・IC や空港などから都市高速道路を整備　など
水前寺・九品寺地区	●暮らしやすい：15 名 ●暮らしにくい：0 名	・体育館や図書館や公園などの教育文化環境が良い。 ・日常生活が便利。 ・中心市街地に近くて静か。　など	・渋滞が激しい。 ・町内で集まれるような集会所が無い。 ・地域コミュニティが不足している。　など	・自転車利用環境の向上が必要 ・自治会への加入が必要。地域のリーダーの育成が必要　など
健軍地区	●暮らしやすい：13 名 ●暮らしにくい：0 名	・日常生活や公共交通の利便性が高い。 ・自然環境が良く、災害が起きにくい。 ・とにかく住環境が良い　など	・健軍商店街の活性化が必要。 ・渋滞がひどい。道路が狭い。　など	・高齢者への対策が必要 ・地域のコミュニケーションの充実が必要 ・市電の延伸やモノレール化はどうか。　など
平成・南熊本地区 （平成・南熊本駅周辺）	●暮らしやすい：12 名 ●暮らしにくい：2 名	・中心市街地に近く、日常生活の利便性が高い。 ・総合病院が充実し、公園などもなる。　など	・交通渋滞等がひどい。周りがどんどん駐車場になっている。 ・住民の協調性が悪い。　など	・市電やバスの環状線化はどうか。 ・ごみだしのマナーが悪い。 ・お年寄りを地域で支える取り組みが必要。
刈草地区 （島町・上ノ郷）	●暮らしやすい：12 名 ●暮らしにくい：1 名	・日常生活や公共交通の利便性が高い。 ・区画整理されており暮らしやすい　など	・公民館などの地域で集まる場が少ない。 など	・新しい JR 駅に駐車場が必要。 ・農業試験場跡地の開発に期待する。　など
富合地区 （南区役所周辺）	●暮らしやすい：2 名 ●暮らしにくい：0 名	・病院や学校、保育園等がある。 ・自然が多く環境が良い。　など	・生鮮食品が買えず、川尻や宇土へ行かなくてはならない。 ・公共交通が不便。　など	・乗合タクシーの整備が必要 ・県営野球場の誘致　など
城南地区 （城南総合出張所周辺）	●暮らしやすい：5 名 ●暮らしにくい：0 名	・日常生活に必要なものは揃っている。 ・人と人とのコミュニケーションが良い。 ・自然が豊か。　など	・めどまち橋の渋滞が激しい。新しい橋を架ける必要がある。 ・公共交通は不便。しかし車前提なので意識してはいない。 など	・農業や観光自然などの地域の魅力活用を。 ・小学校が手狭になっており新設分離校を。 など
川尻地区	●暮らしやすい：5 名 ●暮らしにくい：1 名	・日常生活の利便性が高い。 ・出張所や病院等が近くに立地している。　など	・３号線で地域が東西に二分化されている。 ・地域で集まれる場がない。　など	・天明方面の農産物、海産物の利活用を。 ・農家が減っている。　など
城山地区	●暮らしやすい：13 名 ●暮らしにくい：1 名	・日常生活の利便性が高い。 ・自然環境が良く、住民との繋がりが強い。　など	・公共交通が不便（自動車での移動が前提）。西部車庫の活用を。 ・買い物が不便。 ・子どもが安心して遊べる場が少ない。　など	・食料品の買い物ができる店が増えてほしい。 ・道の駅の整備などで地域の特産物アピール ・企業誘致をしてはどうか　など
上熊本地区	●暮らしやすい：8 名 ●暮らしにくい：0 名	・日常生活や公共交通の利便性が高い。 ・自然や緑が多く、静かである。 ・歴史、文化的な遺産が多い　など	・道路が狭い。 ・芳野などは公共交通の便が悪い。 など	・西区役所に公共交通でいきにくい。 ・熊本駅、上熊本駅の整備に期待している。 など
中心市街地	●暮らしやすい：4 名 ●暮らしにくい：0 名	・日常生活や公共交通が充実している。 ・人と人とのコミュニケーションが良い。　など	・戸建て住人とマンション住人の交流が不足している など	・高齢者になり免許返納しても暮らしやすい など

巻末１－４　民間団体ヒアリング結果

■ヒアリング概要

平成 26 年 11 月～平成 27 年 1 月にかけて、以下の 28 団体に多核連携都市づくりの方向性や各団体が抱える課題等に関してヒアリングを行ったもの。主な意見は以下のとおり。

【医療関係】

民間団体等	主な意見
熊本市医師会	・国が在宅医療を推進しており、27 の地域包括支援センターの圏域と 15 の地域拠点がどのように合致してくるのか ・高齢者を拠点内の市営団地などに安く住まわせてはどうか ・病院開設者にこういった計画を情報提供することは可能
鹿本医師会	・人口分布や施設立地状況など、行政からの十分な情報提供を望む ・地域コミュニティの活性化とかかりつけ医を持って生活することが重要
下益城郡医師会	・医療サイドが目指す地域包括ケアや在宅医療はまちづくりとリンクすべき ・今回の地域拠点は、地域包括ケアや在宅医療を含めた拠点であるべき ・空き家等を活用したデイサービスやグループホームを支援してほしい
熊本市歯科医師会	・地域の特性にあった拠点形成を模索すべき。合併町は性質が異なる。 ・熊本市は道路交通網が不便である ・会員に情報を提供することは可能
熊本市薬剤師会	・在宅医療が推進されており、27 センターをベースに圏域を考えることになる ・市内の薬局は県外資本の業者に押されており、支援すべきは地場薬局である ・在宅医療と多核連携都市づくりがどのように合致してくるかが課題

【高齢者・障害者関係】

民間団体等	主な意見
熊本市社会福祉協議会	・高齢者支援、子育て支援、障害者支援などの福祉の総合窓口があると良い ・当協議会は地域コミュニティの活性化に取組んでおり、地域のつながりが重要
熊本市社会福祉事業団	・入所型施設は郊外部の環境豊かな所で良いが、通所型は利便性が良く、分かりやすい場所にあったほうが良い ・地域包括ケアシステムと多核連携都市のリンクの仕方が難しい。 ・人口分布など、行政からの情報提供を望む
熊本市老人クラブ連合会	・現在の地域社会は老人が大半を占めており、コミュニティ形成の大きな担い手であるため、活用すべき。
熊本市老人福祉施設協議会	・建設ニーズは中心部に多いが土地が無い。行政に手伝って欲しい。 ・高齢者になってからの引越しは困難。子育てが一段落した 50 代ぐらいをターゲットに住み替えを促進すべき。 ・地域包括ケアや在宅医療は実はお金がかかる。非効率的であり拠点に多数の病床を持つ大きめの施設を立地すべき。また、介護に携わる人材の確保が課題である
熊本県身体障害者福祉団体協議会	・障がい者をどこの保育所、小中学校でも受け入れられるようにすべき ・拠点ごとぐらいで福祉のための総合案内所があると良い

【子育て関係】

民間団体等	主な意見
熊本市保育園連盟	・保育園の土地は寄付が多いため、拠点への集積に保育園はなじまない。 ・今は施設の建替え、改修をしたい施設がたくさんある状況 ・保育所は地域の資源であり、もっと地域に活用してほしい ・出生率の向上には親が家にいる時間を長くすべき。
熊本市 私立幼稚園協会	・防犯の面で学校や公園が閉鎖され、子どもが集まる場が無くなった。地域で育つ環境を作ってあげることが重要。 ・花火大会やどんどやなど、昔からの年中行事を復活すべき ・出生率向上には３世代同居を推進するべき。定住促進、少子化対策に繋がる
熊本県 私立幼稚園連合会	・施設のキャパは十分。待機児童解消には人材(保育士)の確保が課題である ・共働きの推進も一つの手だが、親が子どもと過ごす時間を増やすのも重要

【教育関係】

民間団体等	主な意見
熊本市 ＰＴＡ協議会	・地域交流の場として学校の役割は重要。子育て支援ネットワークができたのでこれを活用すべき。 ・校区ごとのまちづくりを担う「地域ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ」を行政でリードして作って欲しい
熊本市社会教育 振興事業団	・事業団の活動であるスポーツ振興が地域コミュニティの活性化に繋がる ・行政はもっと情報を発信してほしい
熊本県 私学協会	・介護の専門学校が減ってしまった ・学校が地域に果たす役割は大きく、学校でのイベントをもっとすべき

【経済関係】

民間団体等	主な意見
熊本青年会議所	・空きテナントの地主が金に困っておらず、バブル期のような高額賃料じゃないと貸さないケースがある。そのまま空き床となっている ・在宅医療は介護する側の負担が大きい。実態は施設整備を推進すべき ・時間や余裕を持った高齢者と地域コーディネート役のマッチングが必要 ・行政の情報は自分でプル(ひっぱる)しないと出てこない。情報提供を流して。
熊本商工会議所	・商店街などでは住宅と閉鎖した店舗が一体としてあり、この活用が課題 ・昔ながらの商店街は地域コミュニティの活性化に寄与する。高齢者に出てきてもらう工夫が必要
熊本経済同友会	・商工会議所と一緒に作成した都市圏ビジョンの推進を図っていく
熊本県商店街 振興組合連合会	・病院や学校などの都市機能や居住は中心部に集めることが重要である ・エリアについては小さく決めてよい ・地域をリードする人材の育成が必要。最終的にまちづくりはひとづくりである。自治会などと連携して、その地域を良くしようとする体系を作るべき。

【住宅関係】

民間団体等	主な意見
熊本県建築協会	・居住誘導区域から外れる人達への配慮が必要。住み慣れた地域から離れたくない人は多いはず。 ・公共交通については交通センターへの一極集中。もっと分かりやすくすべき。
熊本県建築士事務所協会	・拠点周辺や公共交通軸周辺に空き家があり、その対策として空き家の除却費やリフォームに対する補助が必要 ・空き家対策と同時に狭隘道路の解消などインフラ整備も必要 ・住宅を誘導するためには医療や商業、子育て支援施設が必要
熊本県建築士会	・行政が定住促進のためにお金を交付する制度は効果が少ないと考える ・中心市街地内の小さなエリアでも核を結ぶという観点が必要 ・この考えは非常に重要であるが、スパンの長い計画なので時間をかけてイメージを市民に植え付ける必要がある
日本賃貸住宅管理協会熊本県支部	・郊外は地価が安いので税金を上げるなどして誘導してはどうか ・賃貸業の利回りが成り立つのはまちなかや公共交通軸周辺である ・空き家の大半は賃貸用でなく、単に後継者がいない家や老朽家屋である ・バスも駅のように、明確に核となるバス停があると分かりやすい ・持ち家から賃貸へ移ることはほぼ考えられない
熊本県宅地建物取引業協会	・中心部の良い土地やビルは、東京等から投資目的による買占めがあっており、市民レベルでは流通していない ・実態はまちなかは虫食い状態で空き家がある。空き地空き家は公園などにすべき ・甲佐町のように補助金を出して人を呼び込むことの効果はいまいちである ・行政に情報提供することは可能であり、行政と業界のネットワーク構築が重要
全日本不動産協会	・更地にすると税が上がるが、逆に老朽化した家屋の税額を上げるべきである。法律や税制度と個人財産との関係が整理されていないことが問題 ・行政は土地に対する個人の財産にもっと踏み込んで良い ・知らない土地に移り住むにはその地域のコミュニティに入れるかが課題
熊本県住宅メーカー協議会	・近くに多世代で暮らす人に対する補助を行うべき。安心して子どもを産める環境 ・県外から見ても熊本は住宅マーケットとして魅力的であるが、それを活かしきれていない。新幹線定期の補助などで呼び込んではいかがか。 ・周辺市町は子育て世代に手厚い支援があり、そっちに人が流れている ・住んでくれる人に直接お金を支援することに関しては効果が少ないと考える
熊本県優良住宅協会	・まちを再生するためには、地域会合の場を増やす必要がある。行政はそういった場を地域に対して作ってあげる努力をすべき ・ＪＲの高架が完了したら西部に向かってまちが繋がるため、効果を西部に波及させてほしい ・新しい核は民間が手を入れるので、行政は昔ながらの核を復活させるべき